

(様式1)

令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立(第二小) 学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】
・ 日常の授業の充実を図るため、学級経営を盤石なものとし、聞く力を付け、考えの交流を活発にし、児童中心の学び合う学習過程を大事にした授業改善に取り組む。(二小スタンダードを徹底する)
・ 学力調査の分析に基づいた授業改善推進プランとPDCAサイクルを活用した授業評価を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
・ 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、主体的・対話的で深い学びを計画的に展開する。
・ 算数習熟度別指導加配教員を活用し、筋道を立てて考え、学んだことを学習や生活に生かす指導方法の工夫・改善を図る。

【令和元年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】
・ 質問紙で学習がよく分かっている、自信があると答えている児童が、理科以外は7割を超える正答率を出している。
・ 国語は、全体としては都の正答率を上回っているものの「登場人物の言葉から心情を読み取る問題」については正答率が6割を下回り、課題と考えられる。また、「文の中における主語と述語との関連について考える」問題も正答率が5割を下回っていた。「言語についての知識・理解・技能に関する問題」は7問中3問が正答率6割を下回っていることから、基礎的・基本的な内容を繰り返し取り組むことで確かな学力の定着を図っていく。
・ 社会は、全体としては都の正答率を上回っているものの、「観察・資料活用の技能」に課題が見られた。資料から読み取った事実を基に、自分の考えをまとめ、表現する活動を各単元の学習の中に位置付けて取り組んでいく。
・ 算数は全体としては都の正答率を上回っているが、数学的な考え方に関する問題に課題が見られた。また、「数量や図形についての知識・理解」にも課題が見られた。表を活用して式を組み立てることや、式で使われている数のもつ意味について読み取る指導の充実を図っていく。少人数での習熟度別指導を充実させ、個人差に応じた指導体制や学習活動の工夫を図る。
・ 理科は、全体としては都の正答率を上回っているが、「観察・実験の技能」や「自然事象についての知識・理解」に課題が見られた。今後は、観察や実験を通して、自然事象に触れる機会や体験的な活動をより一層取り入れるなどして、知識・理解の確かな定着を目指す。

【授業改善の方針・目標】

・60分授業を行い、授業時数を確保するとともに、効果的に進められるよう計画案を作成する。
・文を正しく読み取る力を高めるための指導を国語科を中心に高め、全ての教科で内容の理解が深まるように授業改善を図る。
・伝え合うを核に、思考力や表現力を伸ばすと共に、主体的・対話的で深い学びを実現する授業作りを行う。
・「二小スタンダード」を基に、校内で統一し、授業に臨む基本的な姿勢や学習のルールの定着を図る。

【授業改善のための具体的な取組】

【1年】(国語)「書く」単元で繰り返し指導し、意識して書かせる機会を設ける。(算数)問題作りを行い、友達の問題を解くことで、加法で使う言葉、減法で使う言葉を身に付けさせる。(生活)観察する前にどこに着目するかポイントを絞って意識させたり、記録をする前に友達と発見したことを意見交換したりすることで、自然事象の不思議さに気付かせる。
【2年】(国語)伝え合うことの楽しさや、必要性を感じられるように、スピーチや発表の機会を多く取り入れていく。(算数)位取り表を活用し、単位換算の習熟を図る。指導単元にかかわらず、計算問題を解く機会を多く設定する。(生活)学習のまとめには、新聞・ペープサート・紙芝居・クイズ等、様々な方法を例示して選べるようにする。
【3年】(国語)場面の様子や登場人物の心情を捉えるために、根拠となる言葉を確かめさせたり、対話の学習を取り入れたりする。(社会)1つの資料に注目させ、それについて全体交流で様々な意見を出させる。また、それができるようになったら、2つの資料を比較して自分の考えを書くようにする。(算数)数直線などで表す経験を増やし、図と関連付けて考えさせる。面積では、具体的な広さを提示して量感を育てるようにする。(理科)実験についての予想を書かせ、結果と比較して考察したことを書かせ、全体でも意見交流を行う。
【4年】(国語)話し合い活動の場面では、自分の意見を先に書いてから話し合いを始めるなど、自分の考えをもって参加するように指導する。(社会)問題を解決するために、資料から読み取ったことを比較・関連付けさせることに重点を置いた学習活動を取り入れる。(算数)問題文の中で分かっていることにアンダーラインを引かせ、聞かれていることを口で表して図に表す経験を多くさせる。(理科)実験の結果から得られる考察を文章化する活動を重視する。
【5年】(国語)物語単元では対話活動や全体での話し合い活動での交流を行い、互いの意見を聞き合う学習を取り入れる。(社会)板書や学習カードを工夫し、分類・比較・統合などの思考を児童が行いやすいようにする。(算数)きちんと問題を読み、キーワードや関係を理解したり、数直線で立式をしたりし解答するように指導する。(理科)どの単元でも予想―観察実験―考察という段階を繰り返すことで、学習の見通しがもてるようにする。
【6年】(国語)随筆の学習から文章の構成や、表現方法を知り、書くことへの抵抗感を減らす。辞典の活用を促したり、読書に親しませたりして、語彙や慣用句を習得させる。(社会)資料の読み取りが上手な児童の意見を聞いたり、全体で交流をする。そして自分の意見を書く時間を確保する。(算数)問題文で大切な語句にアンダーラインを引いたり、数直線などを使って立式したりし、解答するように指導する。繰り返し問題に取り組むことで、演算決定を確実にできるようにする。(理科)観察や実験の際には、準備・方法・仮説(予想)・結果・考察・まとめなど、考える過程が分かるようなノート指導を継続的に行う。
【音楽】一人でもペアやグループでも思いに合った表現をし、表現ができていないか聴き合ったり歌い合ったりする。
【図工】少人数グループでコミュニケーションを取りながら、絵・工作・造形あそび・鑑賞に表す題材を工夫する。
【家庭】教材を複数用意したり多様な学習方法を取り入れたりし、個々に対応する。さらに、児童同士の教えあいの時間をとり、技能の習熟を図る。
【体育】技能について系統化し、段階的に基本技能を習得させる時間を設けるようにする。コーディネーショントレーニングを取り入れる。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

・学年ごとの検証メモを作り、目標に対する検証を行い、次の目標を立てる。